

ZOCALO 2013 4 ▶ 5

ZOCALO=ソカロはメキシコの都市の広場を意味するスペイン語。埼玉県立近代美術館はアートを通して交流する市民の広場をめざしています。

企画展「たまもの 埼玉県立近代美術館大コレクション展」

会期：2013年4月4日(木)～5月19日(日)

埼玉県立近代美術館では、収蔵作品選「たまもの」の刊行を記念し、展示室だけでなく館内のさまざまな場所を使って作品を展示する「大コレクション展」を開催します。発案者である建島哲館長に企画の意図をうかがいました。

◎この企画展は「全館常設展」といった趣です。アイデアのきっかけは何ですか？

この美術館のコレクションは、購入や寄贈による30年の蓄積がそうとうあります。その蓄積を伝えることによって、とくに埼玉県民をおっ！と言わせたい。身近にこんなすごいコレクションがあったのか、埼玉もやるじゃないかと実感してもらいたいです。日本でトップとまでは言わないが、実際そういう実力があることは作品選「たまもの」を見てわかる。ならば見せてやるうじゃないか実力を、と(笑)。これを多くの人に満足してもらうためには、蓄積の厚みを、ユニークな構成でお見せする必要があります。たくさん出すという豊かさを通じて初めて納得してもらえようと思っています。その自覚が、ひいては埼玉の文化力を示すことにもなる。というわけで、大きなテーマは「豊饒」です。

◎たくさんの作品を展示するのは難しくありませんか？

会議の席で僕が「作品を2段がけでもいいから、とにかくたくさん出す展覧会」と言ったとき、学芸員たちは、なりふりかまわず壁をうめつす下品な光景を思い描いてしまったようですが、それは本意ではありません。豊潤さを展示のポリシーとしてとらえたいんです。

最近の美術館の展示は、どちらかといえばおしゃやかな傾向にあります。ホワイト・キューブの展示空間で余白も活かす。デザイン的にセンスのいい展示。ひとつの壁にぼつんと1点だけ掛けるといったように。これはとてもいいことです。単に作品を見せたいというのではなく、吟味された展示環境の中でゆっくり鑑賞することによって作品の意味が伝わってくるからです。そもそも作品は孤独なアトリエのなかで1点ずつ創られているものであって、本来、1点ずつ鑑賞されるべきです。その原則をはずして、作品を単に集合体としてデザインしてみました。というのはまずいと悪う。

ですから、どっどっ見えるというのは毒にも薬にもなるわけです。ぎゅぎゅ詰め込めばいいというのではなく、1点だけ、あるいは集合体でか、いろいろ展示方法を交えて、30年かけて作りあげたコレクションの多様な側面が効果的に浮かび上がってくるように、それなりの工夫が必要だと思います。

◎客観的に見て、当館のコレクションの特色は何でしょうか？

初代館長以来の収集方針に、日本の近代美術をみこめるオーソドックスな視点が貫かれており、しかも県ゆかりの美術についても応分の配慮をした、とてもバランスのとれたコレクションだと思います。それと同時に、現代美術のシャープなところも致つて、安定志向だけではない新たな方向にも取り組んでいる。日本の美術館としてはポリシーがあるといえます。

ポリシーの有無は、すぐにはわかりません。というのは、作品は体系的にマーケットに出るわけではないからです。今年は明治、来年は大正、その次は昭和、戦後と順に、毎年〇〇円ずつ買ひしよう、とはいきません。アトランダムに出てきたものに、そのときのタイミングや巡り会いで反応なくくちやいけいなんです。あるものを購入するかどうかを予算に応じて瞬間的に判断していくのです。その都度利利的な瞬発力であっても、継続した積み重ねがジグソーパズルのようにコレクションの体系を充足させていく。長い年月をかけて次第にジグソーの面、つまり体系が見えてくるというわけです。ちゃんとポリシーがある美術館とそうでない美術館とは、10年たつとその差が見えてきます。

作品の収集は、ある意味、文化的な投資みたいなもので、消費してしまうのではなく、県民の文化資産を増やしていると考えていいでしょう。作品にともなって入ってくる多くの情報もとても貴重です。実際、いろいろな人とのコンタクトが寄贈の誘い水になつたりして、大熊家コレクションのような大きな申し出につながります。

◎幅広く収集してきましたから、にぎやかな展示になりそうです。

展示会って、わくわく感がほしいですね。オーソドックスなものもいいけど、エネルギーが満ち溢れているセクシーな感じも必要です(笑)。

「たまもの」展には年代やジャンルをシャッフルした32もの展示テーマがあって、厚みと幅の広さとユニークさ、角度があります。こんなにいるるな発想が自前のコレクションだけでできるというのは、これまでの収集が成功しているからだといえるでしょう。

全員の学芸員がアイデアを出すというのも、実は面白いやり方なんです。これはぜひトライしてみる価値があると思います。頭の中で作品をシャッフルするというのは難しいんですよ。時間、地域、傾向、運動限に並べること

はよくあるけれど、それをいったん脱構築してわくわくするものをやることにすると、一人の頭の中で考えただけでは限界にぶつかってしまふ。みんなでアイデアを出せば、僕々のテーマはそれほど独創的でないとしても、全体では誰も考えたことのない展示になるはずなんです。または、Aさんは明治時代、Bさんは彫刻作品というように、時代やジャンルであらかじめ担当を分けてしまいがちです。それを持ち寄り体系はできるけれど、分類図録的な展示バージョンにならない。また最近では、複数の学芸員が手がけるより、ひとりの担当者のシャープな切り口で企画する傾向にあります。それは該当ではあるけれど、豊潤に見せたいときには向いていない。今回は「豊饒」の方が先にあつたからこういうやり方がいい。総花的にならないユニークさ、という難しいことをやるうとしていっているわけです。お宝を全部出しましょう、でも総花的にならないようにしましょう、というは矛盾しているけれど、各自がそれぞれの考えで収蔵品をシャッフルする「たまもの」式は、矛盾せずにコレクションの豊潤さを見せる絶妙な展覧会になると思います。

◎「大」コレクションにふさわしい展覧会になりそうですか？

「大」が付くだけで、単純にすごいぞという感じがするでしょう？(笑)「大」みたくて恥ずかしいけれど、恥ずかしくたっていいんだ。本当は「中」かもしれないけれど「小」ではないかと。ふつうなら名品100選に絞るけど、数百点出るのがいい。

館長室やトイレに展示してもかまわないけど、メンテがたいへんなので、エントランス・ロビー、廊下、コインロッカー、図書室などを使います。美術館の建物自体をメディアと考え、それを最大限に生かす展示をしてみたい。施設の空間自体をメディアととらえる考え方は今では珍しくありませんが、それで成功する場合もあるの、たまもの展がユニークな実験の場であつていいと思います。埼玉の展示室は、ホワイト・キューブの思想がスタンダードになる前に誕生したから天井が低いし、今どきの美術館建築と比べると良い展示環境とはいへませんが、そういう実験ができる余地はある。田中米吉さんの立体を建築と合体させた遺伝子がありますしね。建物全体をメディアとするまでは難しいけれど、さまざまな場所を活かせるといういいですね。某美術館みたいに美しいホワイト・キューブの聖域がきっちりあるタイプじゃなくて、ロビーと展示室とどっちがいいかわからないような美術館だからこそ、全部使っちゃうとかえて面白いですよ。

◎つまり、「たまもの」展には、楽しみがふたつあるということですね。

そうですね。作品がたくさんあって、あちこちに展示されること。もうひとつは、一人の学芸員が考えた企画展的な独創性では浮かび上がらないコレクションの多様な側面が見えてくることです。

それぞれの学芸員に蓄えがあるから、アイデアは面白いですが、硬軟とりまぜてね。全員参加の展示会を、どうして他の館で思いつかなかったんだらうと思ふんですが、堅実な美術館のキャリア、それが生きてはじめてこういう発想の展示会ができるということでしょうか、なるほど！そういうことだ、今わかりました(笑)。他の美術館ではできない展覧会かもしれないという意味では、僕もますます楽しみです。混乱しすぎて、この美術館が何を考えているかわからないと思われることもありますが、成功したかどうかをぜひ会場で確かめていただきたいですね。(聞き手・構成:H.O.)



アンリ・ド・トゥールーズ・ロートレック
《ラル・レビュー・ブランシュ》誌ポスター)1895年

今回の企画展「たまもの」では、学芸員が総力をあけて32のテーマで作品を展示します。せっかくですから、ふだん「ソカロ」で見かけることの少ないとおきの作品(「たまもの」とともに、これらのテーマをご紹介します。※赤字のテーマは解説付き)

●企画展示室(2階)

1. 面ざし
2. 描かれた家族
3. 深く眠る
身近な人が眠る姿を見守る画家の眼差し。眠りをテーマにした作品を集めて展示します。あなたも眠くなるかも！
4. 風薫る季節
5. 埼玉の景色、東京の景色
6. 豊作と守一
7. 珠九と山田光春
一葛藤の果てに
8. 詩と版画
9. シュルレアリスムの行方
10. 字の形・本のカクチ
11. 百花繚乱
12. 大熊家コレクションの精華
横山大観の作品全10点を含め、大熊家コレクションの近代日本画の精華を一堂に展示公開します。



3. 寺井カ三郎《寝る子》1967年



12. 横山大観《春雨 秋雨》1923年頃

13. ファントム・現の闇
14. プライマル・エレメンツ・コレクション観想
15. <コマ>と<フレーム>
16. 挿絵とか装幀とか
17. 食べるもの
18. 世界は丸い
19. 飛翔一憶懐
20. 「藝」の作家たち
21. 甦る。春陽会の日々
春陽会展の控室に貼られた壁新聞などを初公開します。昭和初期の画家たちの素顔や日常を、垣間見ることができまふ。



21. 「小穴」一宅で「春陽会雑報」を徹夜で刷る。1936年

22. 印象派研究の部屋
23. ナンセンスのセンス
24. パナーによる記念撮影コーナー
●常設展示室(1階)
●MOMASコレクション観覧料で、常設展示室のみの観覧が可能。25. フレンチ・コネクション
—日本とフランス

26. グリーン・レボリューション
日本画、油彩画からドローイングまで、ジャンルを問わずグリーンの表現が印象的な作品をセレクトして紹介します。さまざまな線の誘惑に浸ってください。



26. 佐藤太清《青室観雨》1951年

27. 動物のすがた・かたち
28. 夢のメキシコ

●美術館のあちこち
※観覧は無料です。

29. 椅子の美術館
30. 漫画家・麻生豊の買ひ物
※13時から図書室(3階)でご覧いただけます。

「ノンキナトウサン」の麻生豊がヨーロッパで買った貴重本・珍本を紹介いたします。

31. ハイド・アンド・シーク(美術館のかくれんぼ)
32. 「MOMAS」の扉の仲間たち



30. ジョゼフ・バンション(絵)
「ベカシヌの旅行」1923年

次の展覧会 第63回埼玉美術展覧会
会期：5/28(火)～6/19(水)



上田 薫《ジェリーにスプーン C》1990年

「デザイン」は複雑な欲望

開館30周年を記念して刊行された『たまもの』埼玉県立近代美術館のコレクションより、デザインを手がけた加藤賢策さんにお話を伺いました。(以下:U=聞き手、K=加藤氏)

U:個人的には神奈川県民ホール・ギャラリーの展示会で加藤さんのデザインに興味を持ちました。

K:最初の依頼は「日常/場違い」。材料はタイトルだけ、しかもグループ展なので、作品に頼らずイメージを作る必要がありました。韓国語の書体に入っている日本語の書体を使い、しかも「日常」を鏡文字にするなど「すぐにはわからないけど、何かへん」な感じを狙いました。また、「泉太郎」展では「展示はライブ、図録はアーカイブ」をコンセプトに、「展示記録は事後に刊行、もしくは分冊」という考え方に挑みました。展示会オープン時に図録は出ていますが、県民ホールの頁は白で、後から送られてくる展示記録のシールを貼る、という仕組みです。

U:深読みすると、白い頁のまま記憶の中で作品を想起する経験もいいですね。思い浮かべるイメージは人によって違うはずですし、キャプションに「(部分)」と入れると、記憶の中で作品にズームしたりするでしょう。これは一例ですが、加藤さんのデザインには、そうした創造的想像を誘う懐の深さを感じます。デザイナーを志望した動機やデザイナーとしてのごこだわりについて教えてください。

K:「デザイン」が面白いと思えたのはだいぶ後になってからです。「絵を描きたい」とか「映画を撮りたい」といったストレートな欲求に対して、「デザインをしたい」という気持ちはわかりにくい。欲望として複雑だと思えます。それと、デザインが面白いと思ったきっかけは、杉浦康平さんのデザインです。メタなことをベタに実現するデザインが杉浦さんの魅力です。デザイナーとして、僕はどちらかというとハッキングタイプで、ルールをひとつずつ検証して何かをやらざるを得ないかを考えるのが好きです。デザインをすることで世界が反転する、そこに魅力を感じます。

U:「デザインは複雑な欲望である」、名言ですね。『たまもの』も、コレクションカタログというオーソドックスなタイプの本を個性的な本にしたい、という矛盾した欲望の産物です。その矛盾した欲望が、加藤さんのデザインに辿り着いたような気がします。図版と文字が分離されているので、図版頁の白が壁を思わせ、展示を想起させる効果もあります。

K:図版と文字が同じ紙に印刷されることに慣れてしまった状況で、いかに作品に目を向けさせるかを考え、図版と文字を分離しました。ヨーロッパのモダニズム系の流れでは、図版と文字を混在させる手法がすごく洗練されていますが、『たまもの』はその流れに真っ向から反旗を翻したデザインです。図版と文字が共存する同一平面を解体して、別次元に存在する2冊の本をかみあわせたような特異な仕上がりです。日本画から現代美術まで中身は多岐に渡っていますが、ミニマルでストック的な形式が多様さを強気に束ねています。名前も重要で、表紙のデザインは『たまもの』からきています。「陽物」と「埼玉のもの」をかけたタイトルということですが、色々なイメージがわきますよね。「まもの」とか。

U:『たまもの』には「まもの」が棲んでいるわけですね。4月からの大コレクション展の準備でコレクションと格闘する学芸スタッフは、皆、「まもの」とりつかれているのかもかもしれません。展示は多様なテーマで構成されますが、コレクションの核は『たまもの』に凝縮されています。展示と本をあわせて、当館のコレクションの魅力より多角的に味わっていただきたいと願っています。(聞き手:G.U.)



加藤賢策さんデザインの『たまもの』の表紙

たまもの 埼玉県立近代美術館大コレクション展



イヴァン・ラプシン(春の夕映え)(2階講堂絵巻の原画)1981年

とき・4/4(木)~5/19(日)/ところ・企画展示室(2階)/観覧料・一般800円(640円)、大高生640円(510円)
※()内は20名以上の団体料金。中学生以下と65歳以上、障害者手帳をお持ちの方(付添い1名を含む)はいずれも無料です。
内容・当館が所蔵する美術作品から代表的な名品をはじめ、あまり展示される機会のない珍しい資料まで、初公開のものも含めて、大規模に紹介します。

《関連の催し物》

○学芸員によるギャラリー・トーク

とき・4/6(土)、13(土)、20(土)、27(土)、5/11(土)、18(土) いずれも15:30から30分程度

ところ・企画展示室(2階)/費用・企画展観覧料が必要です。

○スペシャル・トーク

とき・4/21(日)15:00~16:30/ところ・講堂、企画展示室(2階)/出演・大熊雄二/費用・企画展観覧料が必要です。(事前申込不要)

とき・5/12(日)14:30~16:30/ところ・講堂(2階)/出演・柏原えつとむ/費用・無料(事前申込不要)

○ミュージアム・コンサート:「Gift of Music, Gift for All」

とき・5/4(土)14:30~15:30/ところ・講堂(2階)/出演・上野耕平(サクソフォン)、上田晴子(ピアノ)/定員・60席(当日先着順)/費用・無料

MOMASコレクション I



小茂田青樹(鳥)1930年

とき・4/4(木)~5/19(日)/ところ・常設展示室(1階)
観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)
※()内は20名以上の団体料金。中学生以下と65歳以上、障害者手帳をお持ちの方(付添い1名を含む)はいずれも無料です。
※企画展「たまもの 埼玉県立近代美術館大コレクション展」の一環ですが、常設展示室のみ観覧することもできます。

○フレンチ・コネクション-日本とフランス

フランスで描かれた作品に、フランス近代を代表する彫刻家の作品をまじえて紹介します。

○グリーン・レポリューション

日本画、油彩画からドローイングまで、ジャンルを問わずグリーンの表現が印象的な作品をセレクトして紹介します。

○動物のすがた・かたち

このたび埼玉県指定有形文化財になった小茂田青樹(鳥)のほか、猫、狼、龍など動物を描いた作品を紹介します。

○夢のメキシコ

メキシコを代表するタマヨヤトレドらの版画に、日本とメキシコの架け橋となった北川民次らの作品を加えて構成します。

《関連の催し物》

○サンデー・トーク

学芸員が展示作品から1点を選び、その作品について解説します。

費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。

A とき・4/14(日)15:00から30分程度/作品・速水御舟(夏の丹波路)1915年/担当学芸員・中村 誠

B とき・5/19(日)15:00から30分程度/作品・ジャン・リュック・サール(勇める野牛)1934~44年頃/担当学芸員・吉岡知子

美術館サポーターによる作品ガイド

とき・MOMASコレクション開催期間中の毎日(4/4~5/5/25~26を除く)/ところ・常設展示室(1階)/内容・美術館サポーター(ガイド・ボランティア)が展示作品について解説します。
費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。

MOMASコレクション II

とき・5/25(土)~9/1(日)/ところ・常設展示室(1階)
観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)
※()内は20名以上の団体料金。中学生以下と65歳以上、障害者手帳をお持ちの方(付添い1名を含む)はいずれも無料です。

○まち・ひと・ひかり

印象派からエコール・ド・パリの西洋絵画に、日本近代の代表的作品をまじえて、コレクションのエッセンスをご紹介します。

○生誕100年記念 点描の詩情-高田誠の世界

生誕100年を記念して、詩情あふれる点描で独自の世界を展開した高田誠の画業を、当館所蔵の代表作で回顧します。

○ユーモアとリアリズム

そこはかないユーモアを漂わせる作品からどっつきするようなスーパーリアリズムの作品まで、現代美術の魅力コレクションから再発見します。

○リサーチプログラム ドラクロワをめぐって

近年のドラクロワ研究の成果をもとに、登録美術品(聖ステパノ)の遺骸を抱え起こす弟子たち(丸沼芸術の森蔵)が描かれた背景や画家の意図について考察します。

アートフルプログラム MOMASの扉

とき・毎土曜日13:30~/ところ・創作室(3階)
対象・幼児~一般(プログラムにより対象年齢が異なります)
費用・無料。ただし、「企画展物語 親子クルーズ」「工房」は材料費500円。
申込み方法・FAXまたは当館にて直接お申込みください。詳しくは当館ホームページをご覧ください。
※5/1(水)から6~7月のプログラムの申込みを受け付けます。

- 6月
 - 1日(土) アート★ピンゴ[やまぶき](※事前申込み不要)
 - 8日(土) MOMASコレクション 親子クルーズ (小・中学生+保護者)
 - 15日(土) MOMASコレクション みる+つくる(小・中学生)
 - 22日(土) 工房(小学生~一般)
 - 29日(土) アート★ピンゴ[わかさ](※事前申込み不要)

- 7月
 - 6日(土) MOMASコレクション みる+つくる(小・中学生)
 - 13日(土) み〜つけ! (幼児4才~+保護者)
 - 20日(土) 企画展物語 親子クルーズ「浮遊するデザイン 倉俣史朗とともに」(小・中学生+保護者)
 - 27日(土) アート★ピンゴ[きん](※事前申込み不要)

近現代建築探検ツアー参加者募集

とき・5/18(土)12:15~17:00
見学場所・入間市西洋館(入間市)(写真)、遠山記念館(川島町)
※西武池袋線入間市駅集合、JR川越線川越駅解散予定
※事情により場所等が変更になることがあります。

見学ガイド

定員・20名(応募者多数の場合は抽選)

費用・1500円(受講費。集合解散場所までの交通費、入館料等は自己負担です。)

申込み方法・往復はがきに返信の宛名を記入し、「近現代建築探検ツアー参加希望」と書き、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、連絡先の電話番号を明記の上、当館までお送りください
募集期間・4/1(月)~4/20(土)(必着)



一般展示室(地階)

- ※展示により観覧時間(特に最終日の終了時間)が異なります。
- ◆4/2(火)~4/7(日)
 - U展(洋画、ドローイング、版画、彫刻)..... 一般展示室1~3
 - ありあるクリエイションズ美術企画(絵画、現代美術ほか)..... 一般展示室4
- ◆4/9(火)~4/14(日)
 - 第29回さいたま開港100選展(書)..... 一般展示室1
 - 浦和写真クラブ作品展「自然と風土」(写真)..... 一般展示室2
 - 35周年記念藤田会日本画展(日本画)..... 一般展示室3
 - 彩美展(絵画、工芸)..... 一般展示室4
- ◆4/16(火)~4/21(日)
 - 第3回九条美術展(絵画、彫刻、工芸ほか)..... 一般展示室1~3
 - 第4回純粋粘土作品展(工芸)..... 一般展示室4
- ◆4/23(火)~4/28(日) ※展示室1・4は4/25(木)より公開
 - 第37回埼玉女流工芸展(工芸)..... 一般展示室1・4
 - 第9回群像埼玉支部展(油彩、工芸、写真ほか)..... 一般展示室2
 - 渡会不二男・山口幸子 和紙771(アートの世界展(水彩・和紙)..... 一般展示室3
- ◆4/30(火)~5/5(日)
 - 第17回埼玉二科展(油彩、彫刻、デザイン)..... 一般展示室1~4

「鳴鶴」が埼玉県指定有形文化財になりました

当館の所蔵する小茂田青樹(鳴鶴)(1930年)が埼玉県指定有形文化財になりました。近代美術では、平成3年度の橋本雅邦(長江晴樓閣)(1895年、当館蔵)に続く2番目の県指定有形文化財となります。

ミュージアムショップからのおすすめ商品

染色作家のRIRI TEXTILEより草木色の商品が揃いました! ピンク色は枇杷、緑色はローズマリー、黄色はざくろ、青色は藍。

どれも植物で染めた淡い色合いの糸を、ていねいに手織でやわらかく仕上げた布で作られています。地模様柄の入り方がそれぞれ異なるのも魅力的。草木の息を感じてください。プレゼントにもオススメです。(S.T.)
価格(税込):フーチS 1,680円、フーチL 1,890円、髪飾り 1,680円がまぐちS 3,570円、がまぐちL 4,620円



利用案内

開館時間・10:00~17:30 (展示室への入場は17:00まで)
休館日・月曜日(4/29、5/6は開館)、5/21(火)~5/24(金)
入館料・無料 観覧料・県東開催中はMOMASコレクション観覧料が半額になります。 *65歳以上の方は、年齢を確認できるものをご持参ください。
交通・JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内) *当館に専用の駐車場はあり

ませんが、近くの市営駐車場(有料)、コインパーキングなどがご利用になれます。団体バスは事前にご相談ください。また、お体の不自由な方のご来館には、業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので予めご了承ください。
〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1 tel: 048・824・0111 fax: 048・824・0119
埼玉県立近代美術館ホームページアドレス <http://momas.jp/>



埼玉県2005